

平成 30(2018)年度 東京都福祉サービス第三者評価

# 評価結果報告書

評価対象事業所 (サービス種別)	武蔵野どろんこ保育園 (認可保育所)
評価実施期間	平成30年12月12日～平成31年3月25日

評価機関: 合同会社フェアリンク

(東京都認証番号: 機構 12-213)

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)人間力育てます。 2)センス・オブ・ワンダー 3)人対人コミュニケーション 4)冒険心を持ちワクワクして何にでも挑戦しようとする。 5)夢中になって遊ぶことを通して、物事をやり通す強い力をつける。</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割 子どもや保護者の気持ちに寄り添う保育が出来る。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) 子どもの命を守る。</p>

調査対象

アンケートの対象は調査実施時点で在籍している子どもの保護者全員(ただし世帯単位)。2人以上の子どもが同じ通園している場合は、年齢がいちばん下の子どものクラスに関して回答してもらった。

調査方法

書面による無記名式のアンケート調査を実施。共通評価項目に対し「はい」「どちらとも言えない」「いいえ」「非該当・わからない」の4つの選択肢を用意。依頼状、調査票及び専用の返信用封筒を園経由で保護者に配付し、記入後、評価機関に直接郵送してもらった。

利用者総数

98

利用者家族総数(世帯)

86

共通評価項目による調査対象者数

86

共通評価項目による調査の有効回答者数

48

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

55.8

## 利用者調査全体のコメント

共通評価項目に加え、園に対する総合的な感想を5段階で尋ねたところ、最上位の「とても満足」が20人(41.7%)、続く「満足」が27人(56.3%)、以下、「どちらとも言えない」1人、「不満」「大変不満」はいずれも0人という結果だった。保護者の満足度は非常に高い水準にあると推測される。各共通評価項目に対し、肯定的な回答(「はい」)の割合が8割以上に達した項目が全17問中12問に達しており、中でも保育サービスに設問(問1, 2, 3, 4, 7, 8)と問13(子どもの気持ちの尊重)では回答者の9割以上が「はい」と回答している。一方、問6(安全対策)では「どちらとも言えない」と「いいえ」の回答が半数近く、問9(園内の清潔や整理整頓)でも同じ割合が約4割に上っている。また、問17(外部の相談窓口の周知)では、「非該当・わからない」の回答が2割を超え、「はい」の割合は5割以下にとどまっている。利用者調査の一環として、担当評価者3名で、午前中の戸外保育や、幼児と同じ献立の給食を試食しながら食堂での昼食の様子を観察した。

## 利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	46	2	0	0
実際の調査票の質問文(以下、Q):園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	45	3	0	0
Q:園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	44	2	0	2
Q:園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっていると思いますか				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	47	1	0	0
Q: 戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されていると思いますか				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	39	4	1	4
Q: 急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれていると思いますか				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	24	20	3	1
Q: 安全対策が十分取られていると思いますか				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	44	3	1	0
Q: 行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされていると思いますか				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	44	4	0	0
Q: お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて職員と話したり相談することができるような信頼関係があると思いますか				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	29	16	3	0
Q: 園内は清潔で整理された空間になっていると思いますか				
10. 職員の接遇・態度は適切か	42	6	0	0
Q: あなたは、職員の言葉遣いや態度、身だしなみなどが適切だと思いますか				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	41	4	2	1
Q: 子どもがけがをしたり、体調が悪くなったときの、職員の対応は信頼できますか				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	36	7	1	4
Q: 子ども同士のトラブルやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できますか				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	44	4	0	0
Q: あなたは、職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	42	4	0	2
Q: あなたやお子さんのプライバシー(他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと)を職員は守ってくれていると思いますか				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	43	4	1	0
Q: お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすいと思いますか				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	36	8	2	2
Q: あなたが不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれていると思いますか				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	23	9	5	11
Q: あなたが困ったときに、職員以外の人(役所や第三者委員など)にも相談できることをわかりやすく伝えてくれましたか				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float:right">○非該当</span>
	<b>評価項目2</b> 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float:right">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float:right">○非該当</span>
	<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float:right">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float:right">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <span style="float:right">○非該当</span>
	カテゴリ1の講評	
	園の運営責任者である施設長の業務を本社がサポートする体制を整えている 当事業所の運営主体である社会福祉法人を中核として関連法人が一つのグループを形成し、共通の理念・方針のもとで事業を展開している。一体的な管理体制のもと、本社事業部がエリアごとに各事業所の運営をサポートしている。施設長は園の職務分担に基づき、運営責任者として人材をはじめとする経営資源のパフォーマンスを最大化することに取り組んでいる。今後、主任及びリーダー保育士との会議を定例化して園内の問題把握に取り組むとともに、組織内の意思疎通の活性化を推進し、法人の目指す保育の創造に向けてさらに前進することが期待される。	
	職員集団の統合と連携の強化に向けて、リーダーシップの機能を高めることが期待される 平成28年の開設以来、施設長は他園での保育経験のある職員の価値観を合わせるために、法人の理念・方針に基づく事業所の保育目標の浸透に取り組んできた。昨年度の事業報告では、保育環境に対する捉え方の違いや職員間の連携・情報共有に課題が残ると自ら総括しており、今回実施した職員の自己評価では経営層のリーダーシップに対してシビアな結果が示されている。その一方で、今回の利用者調査では約半数の回答結果ではあるが園に対する高い信頼が寄せられており、施設長を中心に職員集団が確信を持って課題の解決に取り組むことが期待される。	
	法人全体として、施設長の管理能力の向上を目指した計画的な研修を実施している 施設長には日常の保育に関する事項や法人が設定した予算の範囲内で自園の経費をコントロールする権限が与えられている。法人全体として現場のトップである施設長の育成に力を入れて取り組んでおり、年間の研修計画に基づき、毎月、人材マネジメントと保育の質のそれぞれのカテゴリごとにテーマを設定して、同一エリア内の事業所の施設長が学びを共有している。研修の講師は法人役員の他、本社の管理職と施設長が交代しながら務めており、各事業所の主任クラスの職員による横断的な会議との連動を意識したカリキュラムを策定している。	

2			カテゴリ-2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行					
サブカテゴリ-1(2-1)					
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している					
評点(000000)					
評価		標準項目			
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している				○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している				○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している				○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している				○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している				○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している				○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)					
実践的な計画策定に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している					
評点(000)					
評価		標準項目			
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している				○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している				○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている				○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる					
評点(00)					
評価		標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している				○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる				○非該当

カテゴリ2の講評

毎年のアンケートで保護者の意向を把握するとともに、地域の情報収集にあたっている

法人のマネジメントシステムにおいて、保育サービスに関連する法制度についての情報収集は施設長の役割となっているが、実際には本社の幹部会議が中心となって関連する法制度の改正や社会・経済環境の変化、業界の動向等に関する情報の収集と分析を行い、毎月の施設長会議や研修の場で解説している。園では、保護者との日常的なやり取りの中でニーズの把握に努めるとともに、年1回のアンケートを通じて保護者の意向を集約している。また、市内の保育園の園長会等に参加し、地域の情報収集にあたっている。

事業計画を進捗管理や達成状況の検証がしやすい形で展開することが期待される

法人の要求事項に沿って、単年度の事業計画及び3か年計画を具体化しているものの、3年後のビジョンから当年度の計画をブレイクダウンする流れにはなっていない。また、年度予算は本社主導で編成しているが、事業計画との関連については必ずしも明確とは言えない。さらに、事業計画の中身が抽象的な内容にとどまっている部分があり、進捗管理や達成状況の検証を難しくしている。現状と目指す姿のギャップを明確にしたうえで、それを埋める具体的な道筋や方法を計画に展開するとともに、達成基準となる指標の明確化に向けた検討が期待される。

年度の詳細な業務分担を年間のスケジュールに落とし込む形で編成している

年度末の職員会議で当年度の事業計画に対する取り組みの振り返りを行い、それを踏まえて次年度の課題を洗い出すとともに、詳細な業務分担をスケジュールに落とし込む形で編成している。事業所では、計画の進捗状況を毎月の職員会議で確認することを課題としている。施設長に対する目標管理制度では、事業所全体に関する内容を中心に目標が設定され、半年ごとに達成状況を確認している。今後、事業所の目標と連鎖する形で職員一人ひとりの目標を設定する仕組みを整えることで、全体目標の達成に対する職員の参画意識や連帯感を高めることが期待される。

カテゴリ3

3 経営における社会的責任

サブカテゴリ1(3-1)

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の標準項目実施状況

2/2

評価項目1

社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当

サブカテゴリ2(3-2)

利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

サブカテゴリ毎の標準項目実施状況

4/4

評価項目1

利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当

評価項目2

虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当



## サブカテゴリ-3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

5/5

## 評価項目1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

## 評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

## カテゴリ3の講評

## 法令に則った運営を行っているかを法人本部が管理する仕組みを整えている

本社にコンプライアンス担当を置き、各事業所におけるサービス提供体制等について、法令の要件を満たしているかを一元的に管理する仕組みを整えるとともに、3か月ごとに独自の検査項目に沿って内部監査を実施している。また、法人全体として、職員一人ひとりが日常の子どもに適切に対応しているかを共通のチェック項目で自己点検する取り組みを年2回実施している。当事業所の運営等に関して平成29年3月に某出版社が掲載した記事に対しては、法人側が損害賠償を求めて訴訟を起こし、平成31年2月に東京地裁より賠償を認める判決が下された。

## 虐待防止に向けて組織の内外で情報を共有し、予防と早期対応に取り組んでいる

家庭における子どもの虐待が疑われる場合は、法人役員の指示に基づき、公的な関係機関と連携して対応する体制を整えている。また、他の職員による不適切な対応を発見した場合等も想定して、法人役員及び外部の弁護士事務所を窓口とする内部通報制度を設け、虐待防止に努めている。当事業所では、幼児クラスでは年齢別の編成ではなく縦割り保育を基本としており、全クラスの保育室が仕切りのないオープンスペースとなっている。職員相互の気づきを共有しやすいメリットを保育の向上にどのように活かしていくか、組織内のさらなる検討が期待される。

## 園が保有する社会資源を積極的に地域に還元し、子育て家庭の交流と支援を推進している

地域の子育て家庭が親子で利用できるよう、月～金曜の9:30～16:30に園庭・園舎を開放して相互交流を促しているほか、職員による育児相談や保育所体験の申し込みに随時対応している。また、園内に設置された地域の子育て家庭を支援する活動の拠点となる部屋において、厨房職員の指導による週1回の親子クッキングを開催している。そうした地域支援活動の予定や毎回の様子を知らせる通信を発行し、地域の関係者・関係機関に配布している他、法人のホームページにもアップしている。「自然食堂」と題した親子クッキングは毎回好評を呼んでいる。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		
評点(○○○●●)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
○あり ●なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		
評点(○○○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p><b>運営上のリスクを評価したうえで、その軽減に向けた組織的な対策を講じている</b></p> <p>法人として職員の離職を最大のリスクと位置づけ、その防止に向けた研修制度やキャリア形成の支援等に力を入れている。事業所では、法人の内部監査でヒヤリハットの提出件数が少ないとの指摘を受け、その改善に取り組んでいる。子どものケガや保育中の事故を未然に防ぐために、職員一人ひとりの視野を確保するための活動中の位置取りや職員同士の声掛け、フォーメーション等に配慮している。また、感染症の発生・拡大を防ぐための衛生管理に努め、流行のシーズンを迎える前に衛生用品一式を用意して、それを使った汚物処理の実演をおこなっている。</p> <p><b>法人全体で組織内外の事故事例等の情報を共有し、子どもの安全確保に努めている</b></p> <p>子どもが自然体験を始めとする様々な経験を通じて自分で考え、行動する力を育成することを法人の保育理念に掲げる一方で、安全管理にも力を入れ、日常の保育環境に潜む危険に対するアンテナを高めるための職員研修の実施や法人の職員向け通信に他の事業所で実際に起きた事故事例を掲載するなど啓発に努めている。また、子どもに対する虐待のリスクを常に認識したうえで、法人内部の報告体制と内部通報の仕組みを整備するとともに、迅速な対応を可能とする関係機関との連携体制の構築に努めている。</p> <p><b>利用者の個人情報の保護の仕組みと情報を共有し活用するための統一ルールを整えている</b></p> <p>利用契約を結ぶ時点で、利用者から預かる個人情報の使用目的や使用の条件等を文書で提示し、保護者の同意を求めている。職務上、利用者の個人情報を知り得る立場にある職員や実習生には、退職後または実習終了後も外部に漏らさないことを誓約した文書への署名・提出を義務付けている。また、事務室内に鍵付き保管庫を設置し、個人情報を含む書類を分類・整理して保管している。組織内で共有することを目的に収集・蓄積している情報は法人のルールに従ってファイリングし、パソコン内またはキャビネットの所定の場所に保管して、職員に周知している。</p>		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

3/3

## 評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に  
取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

## カテゴリ-5の講評

## 法人が期待する人材像を明示し、スケールメリットを活かした職員の確保に努めている

法人として期待する人材像を明示し、共通の目標に向けたミッションとその実現に必要な能力等を定義して、入職時に職員に説明している。職員の確保と定着を最重要課題に据え、本社が一括して採用をおこなっている。選考にあたっては法人理念に対する共感を重視している。開設2年目の昨年度は常勤職員の退職が続ぎ、今年度に入って法人内の異動も含め増員を図ったものの、現場の負担感の解消には至っていない。法人では法的な配置基準に示された人数で保育を行うことを基本に、スケールメリットを活かした職員の補充や調整に努めている。

## 職員の主体的な学びを促す仕組みを整えるとともに、専門職同士の連携強化を図っている

法人として階層別の内部研修の体系を整備するとともに、本社の管理部門が職員一人ひとりの学習ニーズを把握し、それにながった外部研修を個別に案内して、受講を促している。施設長に対しては上司である本社の管理職との面接を通じて個別の目標と具体策を定め、達成状況を本人と上司の双方で評価して、面接ですり合わせをおこなっている。保育園においては看護師や栄養士が各事業所に単独で配属されることが多いため、事業所を横断した各専門職の部会を組織し、それぞれ定期的にミーティングを開いて、研修や情報交換の機会を設けている。

## 職員参加のプロジェクトや人事考課の待遇への反映により、働く意欲の向上を図っている

職員のモチベーションを高めるために、全社的な業務改善のプロジェクトに職員の主体的な参加を呼びかけ、現場からのアイデアや提案を積極的に取り入れている。また、職員に期待する能力やマインドについて、定着の度合いを所定の項目ごとに評価し、その結果を集計して昇給や賞与、昇格等に反映している。当事業所では、新卒採用の職員のフォローと併せ、他園での保育経験のある職員の保育観をそめることで組織力の向上を図ることに力を入れている。今後、職員体制の安定化を実現するうえで、本社と連携して労働環境の改善を進めることが期待される。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

当事業所では、2階建ての園舎の1階に3, 4, 5歳児、2階に0, 1, 2歳児の保育室が設けられており、0歳児以外の保育室は全く仕切りのないオープンスペースになっている。前年度の事業計画では、重点項目として、子どもが夢中になって遊び込める環境づくりや異年齢保育、職員間の連携等を掲げ、特に環境設定においては、保育室、園庭、空き地の3つのチームに分かれて取り組みを進めてきた。園庭に関しては、職員間の検討を踏まえて、小規模な築山を造成した。その過程で、地中からコンクリート塊が出てくるなど想定外の事態に見舞われ、予定通りに進まない面もあったが、かえって子どもたちの遊び心をそそる造形の築山が完成し、日々のどろんこ遊びの格好の舞台となっている。その一方、保育室の環境設定に関しては計画の実施に至らなかった。

目標の設定と取り組み

- 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- 具体的な目標が設定されていなかった

取り組みの検証

- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

検証結果の反映

- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

系列の全保育園において、すべての年齢の子どもが園内を自由に行き来し、混じり合い、一緒に生活する中で共に成長していく姿を見守る保育(ゾーン保育)の展開を目指す方針が打ち出されている。当事業所においても、ゾーン保育が今年度の事業計画の重点課題の一つとして、異年齢保育に代わって新たに据えられた。また、子どもが夢中になって遊び込める環境づくりについても継続して課題に挙げられ、前年度同様、人的環境と物的環境の両面から取り組みの方針が掲げられている。そのうち、物的環境の改善については、前年度の振り返りで、課題抽出→実行→振り返りのサイクルで取り組んでいく必要が指摘されているものの、今年度の事業計画にはこういったサイクルで進めるのかの具体的な記述がなく、園全体として進捗管理や達成度合いの検証を行い、その結果を職員が共有することが難しい状態になっている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度の事業計画で重点課題の一つに掲げられた職員間の連携に関しては、自園に適した報告・連絡・相談のルールをつくり、情報共有を図ることが謳われたものの、実現に至らなかった。事業報告書では、その原因として、職員が情報を自ら共有しようとする意識の不足を指摘し、次年度に向けての課題として、職員の意識の向上を掲げている。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li>● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li><li>○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li><li>○ 具体的な目標が設定されていなかった</li></ul>
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><li>● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li><li>○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li><li>○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><li>● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li><li>○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li><li>○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

今年度の事業計画では、重点課題の一つとして、継続して職員組織の確立・連携を掲げ、報告・連絡・相談のルールに基づく職員間の連携強化や新入職員の育成とフォローを行うための体制とマニュアルづくりの他、会議の見直しに取り組むことを謳っている。その中で、0, 1, 2歳児クラスを束ねる乳児リーダー、及び3, 4, 5歳児クラスを束ねる幼児リーダーがそれぞれ主宰する会議を月1回実施するとともに、施設長、主任、リーダー職員による毎月の会議を定例化し、園内の問題に関する情報共有と懸案事項の検討を行うことが定められた。そのうち、乳児会議、幼児会議については、子どもの午睡中に時間を調整しながら定期的実施されている。その一方、リーダー会議については実施が滞っており、その原因を明らかにしたうえで、定例化を図ることが期待される。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>法人のパンフレットやホームページで事業所の情報を提供し、見学に随時対応している</p> <p>市役所に法人のパンフレットを置いている他、ホームページを通じて法人の保育方針や園の利用案内等の情報を提供している。見学の問い合わせに対しては、施設長と事務職員が中心となって随時対応している。見学時間は登降園や子どもの午睡の時間帯を避けるために、基本的には午前10時頃から、午後は3時から5時頃を勧めているが、利用希望者の状況に応じて柔軟な対応に努めている。土曜日の見学も可能となっている。今年度リニューアルしたホームページの内容に関して、保護者の感想や意見等を集約し、今後の見直しに活かしていくことが期待される。</p> <p>見学の案内の際に、利用希望者に園の通信等を配布して、園の日常の様子を知らせている</p> <p>見学の問い合わせを受けると、カレンダー形式の予約表に見学者の氏名、連絡先、子どもの年齢等を記入し、現場の職員が確認ができるようにしている。見学の際は、利用希望者にパンフレットや保護者向けの毎月の通信(園だより、食育だより、保健だより)を配布し、園の概要や子どもたちの日常の様子を知らせている。案内用の印刷物には写真画像を多く取り込み、子どもの生き生きした活動の様子を伝える紙面構成に配慮している。事業所では今後、施設長と事務職員以外の職員も見学対応ができるよう、研修等の実施を検討している。</p>		

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリー2の講評			
<p><b>入園説明会の際に保護者と個別面談を行い、保育に必要な情報や要望を把握している</b></p> <p>入園説明会の際に利用における重要事項の説明と契約書類の取り交わしとともに、保護者と個別面談を実施している。説明会の登園順に番号札を配布し、複数の窓口を用意して、子どもや家庭の状況について保護者に事前の記入を依頼した面談票を基に職員が聞き取りをおこなっている。子どものアレルギーや健康状態の確認が必要な場合は、園の看護師や栄養士のいる窓口で対応している。保護者が育児において気になっていることや保育に対する要望等、保育の開始にあたり必要な情報を聞き取り、統一した記録用紙に記入している。</p> <p><b>保護者の要望も踏まえ、子どもが園生活に慣れるための対応や情報提供に配慮している</b></p> <p>新入園の乳児には、なるべく特定の保育士が関わるようにし、子どもとの愛着関係を築く中で園の生活に慣れるよう配慮している。慣らし保育(慣れ保育)は基本的におこなっていないが、保護者の要望に応じて、一定期間、段階的に保育時間を延ばしていく場合もある。法人全体として保護者のお迎え時にその日の子どもの様子をていねいに伝える取り組みに力を入れるとともに、連絡帳に代わるスマホアプリを介した双方向の連絡ツールの活用により、子どもたちの園での様子を保護者が手元で確認できることで、保護者の不安の軽減につながっている面もある。</p> <p><b>転園時等に子どもが移行先で継続性のある支援を受けられるよう情報提供等に努めている</b></p> <p>転園等の際に、必要に応じて、法人の所定の様式に園での子どもの様子等を記述し、保護者の同意のもとで転園先に情報提供する場合がある。年長児は就学を見据えて小学校との交流活動を積極的に行い、園の行事の案内状の送付の他、就学先の見学や運動会での未就学児プログラムへの参加等を通じて子どもが小学校の雰囲気慣れ、不安感の軽減につながるよう支援している。また、保護者より就学支援シート記入の依頼があった場合の対応や就学先への指導要録の送付により、小学校での子ども一人ひとりに対する支援の継続性の確保に努めている。</p>			



## サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の  
標準項目実施状況

12/12

## 評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

## 評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当

## 評価項目3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

## 評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

サブカテゴリ3の講評

法人から示された全体的な計画と指導計画をもとに、園の保育計画を作成している  
 法人本部より毎年2月初めに次年度の全体的な計画と年間指導計画のひな型が各園に配信され、園の職員会議で当年度の取り組みの振り返りを基に次年度の計画を検討、作成する流れが明示されている。当事業所では保育の現場責任者である主任のもとに乳児・幼児のそれぞれのグループのリーダーが配置され、各クラスの保育計画の作成指導等をおこなっている。月間指導計画は年齢ごとにクラス単位で作成されているが、特に縦割りを基本に保育を展開している幼児の活動に関してはグループ単位の月案に基づくことが合理的とも考えられ、今後の検討が望まれる。

3歳未満児等に対して個別の保育計画を作成し、子どもの姿の変化等を記録している

3歳未満児については各クラスの月間指導計画を踏まえて個別の月案または週・日案を作成し、日々の保育記録をもとに振り返りをおこなって次期の計画につなげている。3歳以上では特別な配慮が必要な子どもに対して個別の計画を作成している。また、すべての子どもの発達状況を児童票の項目に沿ってチェックするとともに、乳児は毎月、幼児は3か月ごとに子どもの姿の変化等を個別に記録している。法人の方針のもと、保護者からの開示請求を前提に質の高い記録を残すことを目指しており、法人全体の研修等で職員のスキルアップに取り組んでいる。

毎月の園会議でクラスごとに子どもの特記事項を報告するなど、情報の共有に努めている

事務所内のカウンターに置かれたバインダーに、保護者からの連絡事項や薬の預かり状況等を職員が随時書き込み、全員で確認できるようにしている。また、早番の職員は保護者からの伝達事項を申し送り表に記入し、遅番の職員に伝えている。各クラスの担任は毎月の園会議の前にクラスの様子と気になる子どもについてのメモを所定の表に記入して回覧に付すとともに、園会議で報告を行い、情報の共有を図っている。職員が保護者から意見や要望を受けた場合は、その内容を所定のシートに記入、提出し、園会議の場で検討している。

サブカテゴリ5

5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	

サブカテゴリ5の講評

保護者より個人情報の使用承諾を取るとともに、職員研修等を通じて周知を図っている  
 入園説明会の際の個別面談で、利用者の個人情報の使用目的や使用方法等について書面で説明し、同意の署名をもらっている。必要に応じて療育機関や医療機関等に個人情報の外部提供を行う際は、その都度、保護者の意思確認をおこなっている。また、園の毎月の通信等には子どもたちの日常の活動の様子を生き生きと伝えるために写真を多用しており、その際は顔写真のアップは避けるとともに、保護者より使用の承諾を受けている。法人として個人情報の保護に関するマニュアルを整備するとともに職員に対する研修を行い、周知に努めている。

子どもの羞恥心や性教育を通じた自尊心の育ちに向けた取り組みは課題を残している

夏期のプール活動時は、通りから園児の様子が見えないようにフェンスに目隠し用の網を設置している。また、開放感を重視し、窓を大きく取った園舎の構造から、子どもの着替えなどが外から見えることがあり、部屋の奥や衝立の内側で着替えるように職員が声かけしているものの、全く気にせずに着替えている子どもの姿も実際には見られ、課題を残している。また、法人として5歳児に対する性教育を行うことを方針として掲げているものの、本園の年間指導計画にはその反映が見られず、取り組みの確認には至らなかった。

子どもの権利擁護の観点から子どもの意思の尊重と職員会議での情報共有に努めている

法人として、子どもを呼び捨てにしないことを徹底するとともに、子どもが自分でできることを見守る姿勢を重視している。子ども同士のトラブルの際は互いの言い分を聞き、必要に応じて気持を代弁するなど、子どもが納得できるように仲裁に努めている。登園時間はある程度決められているものの、家庭の状況に応じて個別に話し合いを行い、柔軟に対応している。家庭での養育環境が気になる場合は、担任からの報告を受けて職員会議で情報を共有し、必要に応じて法人役員に報告・相談を行いながら関係機関と連携して対応する体制を整えている。

サブカテゴリー6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリー毎の  
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当

サブカテゴリー6の講評

国際的な品質管理の仕組みを基に、法人全体として業務の標準化に取り組んでいる

法人として保育サービスの分野で国際的な品質管理の基準をクリアする取り組みを継続的にこなっており、専門の認証機関による定期的な審査を受けている。また、所定の研修を受けた社員が法人の定めるチェック表に沿って毎年内部監査を行い、その結果を各事業所にフォードバックして、振り返りの機会としている。チェック表には300以上の項目ごとに確認の方法が具体的に示されており、業務の標準化に対する法人の姿勢を読み取ることができる。今後、保育所保育指針や関係法令の改定を踏まえた用語や内容の見直しを継続的に図ることが期待される。

保育品質マニュアルの活用や職員研修により日常業務や緊急時対応の標準化を図っている

法人の定める保育品質マニュアルは、衛生管理、感染症、危機管理、虐待対応、苦情対応、保健計画、食育計画、給食提供の各領域で構成されており、入職時に正職員全員に冊子が配布されている。各自必要なページにインデックスをつけて、素早く確認ができるように工夫しながら活用している。また、事務所の壁に緊急時の対応や通報のフローチャートを掲示している。ノロウイルス等の感染症の防止対策として、嘔吐物処理用品を園内に備え、それを実際に使用したロールプレイ研修を実施している他、職員会議でエビペントレーナーを使った研修を行っている。

定期的実施している自己評価等の結果をマニュアルの見直しにつなげることが望まれる

法人として現場の職員の前向きな意見やアイデアを大切に、それらを積極的に取り入れて体験学習の企画や職員研修の内容に活かす仕組みを整えている。また、子どもに対する保育の具体的な場面で手本とすべき行動特性を法人として整理し、それを基にして職員が定期的な自己点検をおこなっている。今後は年1回の保護者アンケートと併せて、それらの結果を保育品質マニュアルの定期的な見直しに活かしていくことが期待される。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	34/35
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>連絡帳、保護者からの聞き取り、クラスの打合せや園会議等で子どもの姿を把握している</p> <p>子ども一人ひとりの全体的な姿は、入園時には面談シートを使った個別面談で、家庭における子どもの様子や発達の過程について確認し、園会議等で共有している。日々の子どもの様子については、連絡帳及び朝の受け入れ時に保護者から聞いて把握している。園での様子や発達過程については、乳児、幼児毎に設定した生活課題の項目にチェックを入れる形で把握すると共に、子どもの様子や変化を記録している。気になる子どもについては、午睡時におこなわれる乳児、幼児毎の打合せ及び毎月の園会議、クラス会議等で情報を共有して保育をおこなっている。</p> <p>自主性を尊重した異年齢自由保育の中で、子どもの自発的な行動を見守っている</p> <p>乳児も幼児も年間を通して、異年齢で自由保育がおこなわれている。8:30から始まる午前活動の始めは、1分間の座禅、雑巾掛け、リズム体操、畑仕事等をし、その後は、雨でなければ散歩、公園での外遊び、園庭での泥遊び等の戸外活動をおこなう。散歩の行先や遊びの内容等を子ども自身が決めて動けるよう、保育士は子どもへの言葉かけ等を工夫している。異年齢で自由に活動する中で、年下の子どもは年上の子どもに憧れ、年上の子どもは年下の子どもに手を貸したり、係活動をおこなったりする中で、互いを尊重する心が育つよう配慮している。</p> <p>すべての子どもを平等に扱い、自立を促す言葉掛けをおこなうよう心掛けている</p> <p>特別な配慮が必要な子どもも分け隔てなく、したい活動、関わりたい相手を自ら選択することができる環境を保障することを目指し、職員は、すべての子どもを平等に扱い、自立を促すような関わりをしている。特別な配慮が必要な子どもの指導計画書は、1年を前後期に分け、年間の指導目標の下に、健康、集団参加等の生活課題毎にその実態、短期目標、支援の手立てを計画し、経過及び評価を記すと共に、子どもの様子や状態等は月毎に記録している。小学校教育への円滑な接続に関しては、近隣の学校を訪問して1年生と交流する等している。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>家庭と連携しながら、基本的な生活習慣が身に付くように援助している</p> <p>子どもの様子や状態等、園と保護者の日々の情報共有は、今年度から専用のアプリケーション内の「連絡帳」を用いておこなっている。乳児に関しては、食事や排せつ、睡眠等の生活リズムについても入力してもらうようにすると共に、登園時には必ず子どもの様子を聞いて申し送り表に記入してクラスで共有している。基本的な生活習慣については、一人ひとりの発達状況を踏まえ、保護者と相談しながら身につくよう配慮している。当法人では慣れ保育は必須としていないが、保護者の希望がある場合は、子どもの生活リズムに配慮しながら実施している。</p> <p>お迎え対応の充実を目指し、子どもの成長の喜びを保護者と共有するよう取り組んでいる</p> <p>休息について乳児は、連絡帳や登園時の聞き取りも考慮に入れて、個々の子どもの状況に合わせている。幼児クラスでは、年長児は通常10月の運動会以降は午睡をしない方針だが、今年度は子どもたちの状態に合わせて、1月いっぱい午睡の時間を設ける等、子どもたちの状況に配慮している。降園時には、「感動的なお迎え対応」と名付けて、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えるようにしている。17:30までのお迎えには担任が対応し、それ以降については、遅番の職員が対応できるよう、職員間の引継ぎを徹底するようにしている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p><b>築山のある園庭、空地、仕切りのない保育室で、ダイナミックな遊びが展開されている</b></p> <p>園庭にはダイナミックな遊びを作りだせる築山や木が配置され、タイヤ、木材、鍋等を用意し、子どもが自ら遊びを作り出せるような環境を整えている。園の前の空地は一部は畑として利用しているが、子どもたちが思い切り走り回れる空間でもある。散歩は、季節の移り変わりが感じられる行き先を子どもたちが選べるよう、保育士は活動への導入を工夫している。室内は、0、1、2歳児が過ごす2階も幼児が過ごす1階も、仕切りのない造りで、子どもは自由に動き回っている。今後は乳児室に、自分のやりたいことに熱中できるゾーンを作っていく予定である。</p> <p><b>基本的な生活リズムを心得て、子どもたちは自分で考えて行動している</b></p> <p>園での子どもの生活は時間で管理されることなく、子どもは自分のペースで行動している。例えば、幼児クラスの子どもが三々五々食事を始めても、園庭でどろんこになって夢中で遊ぶ年長児の姿があったが、保育士は「遊びを止めて食事にしなさい」とは言わず見守っていた。そのうち年長児は園庭を引き上げ、泥だらけの服を簡単にたらいで洗ってから、食事に加わった。保育士は、子どもが自分で考えて行動できるような声掛けを心掛けている。集団に参加しにくい子どもには寄り添い、一緒に活動することで自然と集団に関われるようにしている。</p> <p><b>裸足保育や鶏の飼育、当番活動等を通して、生きる力を身に付ける保育を実践している</b></p> <p>裸足保育や毎朝のリズム体操等で運動感覚を養っている。園庭には鶏小屋があり、年長児の当番が採卵や掃除等の世話をしている。ごっこ遊び、制作等を楽しめるような指導計画を立てて、さまざまな表現活動を楽しめるようにしている。年長児には、保育士が図書館で借りてきた本を静かに読める、年長児だけの時間が設けられている。自由保育における基本的な約束事は、「人に迷惑を掛けないこと、危害を与えないこと、危険な行為をしないこと」であるとし、なぜこれを守らなければならないのかを、子ども自身が理解できるような関わりを心掛けている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p><b>近隣の店への訪問等に、子どもが自ら進んで取り組めるよう工夫している</b></p> <p>年間を通して季節に応じた活動、例えばお花見、夏空観察、秋の虫探し、霜柱探し、夕日観察等をおこなったり、毎月、いつもより少し足を延ばした戸外活動をおこなう他に、バスで遠出もしている。「商店街ツアー」と題して近隣の薬局、スーパーマーケット、八百屋、魚屋、豆腐屋等を訪問している。いずれもできるだけ通常の活動の流れの中で取り組めるよう、例えば八百屋に行く際は、「給食に必要なにんじんが足りない」と保育士が発言する等して、子どもたちの買いに行きたい気持ちを作り、子ども発信で活動を作っていくように心掛けている。</p> <p><b>日常の子どもたちの遊びの中から、運動会の競技を作り出している</b></p> <p>10月の運動会の競技は、日常クラスで行われている活動の中から、子どもたちの興味や関心に合わせて作っている。例えば、1歳児の間では動作付きのわらべ歌「あぶくたつた」が流行っていたので、それを基に親子競技を組み立てた。4歳児は、毎日クラスの仕事として取り組んでいるタオル絞りを題材にした。5歳児は、今年の5歳児の取り組みを見て憧れていた竹登りに挑戦した。竹を垂直に立てるための綱は、5歳児以外の保護者が引っ張る等、保護者の力も借りて、みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえる運動会になった。</p> <p><b>子どもたちのいつもの姿を保護者に見てもらえるよう、行事の組み立て方を工夫している</b></p> <p>2月の生活発表会は、保護者に子どもたちのいつもの姿を見もらうことを主眼におこなった。運動会で実施した親子リズムをベースに、全員でお店屋さんごっこをする中で、店の準備をする様子も保護者に披露した。「ケンカなど普段の子ども姿が見られて良かった」という保護者の声があった。行事の実施に際しては、当日までの過程も大切であることを保護者に知ってもらえるように、子どもたちの様子を専用のアプリケーションを用いて配信したり、お迎えの際に個別に伝える等して、保護者の理解を促す工夫をしている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(○●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p><b>遅番保育士自身が、ゆったりと落ち着いた雰囲気を作り出すようにしている</b></p> <p>0、1、2歳児は、18時を過ぎると1階の幼児室に降り、保護者のお迎えがあるまで、乳幼児と一緒に過ごす。乳児については、家庭的な雰囲気の中、身近な大人とゆったりと触れ合ったり甘えを受け止めてもらいながら、過ごせるように工夫する、と指導計画に歌っている。保育時間が長くなる中で、遅番保育士自身が、ゆったりと落ち着いた雰囲気を作れるよう配慮し、ゆっくりと絵本を読んだり、くつろげるスペースを作るようにしている。</p> <p><b>長時間保育においても、子どもが自発的に関わることのできる環境作りを目指している</b></p> <p>幼児については、一人でじっくりと遊び込むものや、自分なりの課題や目標などにゆったりと取り組めるよう、遊びのコーナーや空間、玩具などを備え、保育時間が長くなる中でも、子どもが自発的に関わることのできる環境作りを目指している。2階の乳児室も1階の幼児室も仕切りのない広い造りのため、子どもが落ち着けるような狭い空間を、今後作る予定にしている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>自分で盛りつけた給食を、自分で決めた場所で、全職員も加わってにぎやかに食べている</p> <p>昼食とおやつは、3、4、5歳児は仕切りのない1階の部屋で、運動会以降は2歳児も加わって、皆と一緒に食べている。園で働くすべての職員も、子どもと一緒にテーブルを囲んで食べる。2月からは2歳児も、自分で食べる分を自分で盛りつけ、準備のできた子どもから食べ始める。5歳児は大きな木製のちゃぶ台が定位置だが、他の子どもたちは座りたい場所に自由に座り、自分のペースで食べる。縁側で食べることもある。お代わりも、食べたい子どもが自分で取りに行く。食器は園児用にデザインされた物ではなく、落ち着いた色の和風食器を使用している。</p> <p>園独自の昼食メニューの提供も始め、子どもがさらに給食に関心を持つようになった</p> <p>毎月、栄養士と保育士で構成する給食運営会議で、喫食状況や食育計画およびアレルギー児に関して報告・確認している。メニューは法人本部の栄養士が作成しているが、園の調理担当職員が子どもたちに思いを伝えるべく、園独自メニューの昼食を始めた。食物アレルギーの子どもについては、保護者記入の除去食申請書と医師記入の生活管理指導表を基に面談をおこなったうえで、除去食対応をしている。今年度の食育は、体験活動を通じて食に興味・関心を持つことを一つのねらいとし、畑仕事は土づくりから始め、年間を通してさまざまな野菜を育てている。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>「危ないからダメ」と制することなく、危険な理由を理解できるよう子どもに伝えている</p> <p>法人が年4回開催する保健会議に、看護師が出席している。ある回は、アナフィラキシーへの対応、冷凍母乳の取り扱い、与薬やオムツ交換のロールプレイ等をおこない、議事録を職員に回覧している。園では年2回、0歳児については毎月の健康診断、年1回の歯科検診、病気の知識等を盛り込んだ毎月配付の保健だより、全職員対象の衛生マニュアルや感染症の研修等を盛り込んだ保健計画を作成している。子どもが手洗いうがいに関心が持てるようにし、ケガについては「危ないからダメ」と制するのではなく、危険な理由を子どもが理解できるよう伝えている。</p> <p>食育の一環として、食べ物が身体を作っていることを意識できるよう取り組んでいる</p> <p>食育の目標の一つとして、「今食べているものが、自分の身体を作っていることを知り、食も自分の身体も大切にすることを育てる」を掲げ、年間を通して子どもたちは、季節の野菜とからだの関係、うんちと食物繊維、よく噛んで唾液を出して食べる等を学んでいる。5歳児は小学校への移行を意識して、赤・黄・緑の食品分類を学び、食がからだを作ることを理解できるようにしている。アレルギー対応については、園会議で自己注射の練習器具を用いて全職員が学んでいる。給食の際、対象の子どもは職員室に近い位置に座らせ、早急に対応できるようにしている。</p> <p>裸足保育、雑巾掛け、薄着の推奨等により、子どもの健康を促進している</p> <p>保護者に向けては、毎月配付の保健だよりには、病気以外にも、乳幼児突然死症候群に関する知識や生活リズムを見直すヒント等、子育てに役立つ健康情報に加えて、園が実践している裸足保育や薄着の推奨等を掲載している。園では、雑巾掛けや裸足保育の実践を通じ、強い手足と自分の体を守る力の育成を目指している。9月以降は雨天時を除き、午前・午後の2回、戸外で身体を動かして遊ぶ時間を多く設けて、子どもの健康を促進している。感染症の流行については、理事長に指示を仰いだうえで、詳細情報を看護師が掲示して、保護者に知らせている。</p>		



## 8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

## 評価項目8の講評

お迎えに遅れる場合や発熱した際は、お迎えを急かすことなく、柔軟に対応している

保護者との連携に関しては、お迎えの時に、その日の子どもの様子を手に取るように保護者に伝えている。保護者がお迎えの時間に遅れる場合は、予め電話連絡を入れれば、開園時間内で保育の延長に対応している。何らかの事情により連絡が入らない場合は、30分を目安に保護者に連絡を入れて状況を確認している。子どもが発熱した場合、熱があることを電話で保護者に伝えるが、お迎えの要請はしない。38℃以上になったら再度連絡を入れるが、早めのお迎えが難しい場合は、医療機関と連携を取りながら、お迎えがあるまで保育を継続している。

保護者懇談会での交流や祭りでの当番活動等により、保護者同士の交流を促進している

保護者同士が交流できる場として、年2回の保護者懇談会とどろんこ祭り(夏祭り)がある。懇談会では、カラー写真をふんだんに使った、各クラスの子どもの様子を収めた紙面を保護者に配付し、保育士がクラスの様子について話している。その後、共通のテーマについて保護者同士で意見交換する時間を設けている。進め方等にゲーム性を持たせることで、保護者同士の交流が深まるよう工夫している。どろんこ祭りでは、予め掲示板でいろいろな当番を保護者から募り、ヨーヨーを膨らませたり、的当てゲーム、紙飛行機飛ばし大会等を手伝ってもらった。

全職員ですべての子どもを見守る中で、各家庭の状況に応じた支援を目指している

個人面談は、随時、保護者の希望に応じて実施している。昨年度は、3世帯について実施した。個別に対応が必要な子どもについては、各関係機関との間で、発達相談を実施した。保育参加についても随時受け入れており、昨年度は5世帯の参加があった。園は、乳児異年齢保育、幼児異年齢保育という枠組みの保育ではなく、子どもがそれぞれやりたいことに集中できるような環境設定を目指し、全職員ですべての子どもを見守る姿勢を作ろうとしている。保護者に対しても、全職員が各家庭の状況に応じ、保護者の気持ちに寄り添えるような支援を目指している。

## 9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

## 評価項目9の講評

商店や公共施設、高齢者施設や銭湯に定期的に出掛けて、地域の人と交流している

開園2年目の昨年度より、近隣の方々に園の存在が知られるようになり、散歩等の折りに声を掛けてもらうことが多くなった。散歩や戸外活動以外に、ほぼ週1回、近隣の薬局、八百屋、魚屋等を訪問する商店街ツアーを年間を通して実施し、お店の方と交流している。仕事を見る機会として、消防署や郵便局も訪問している。世代間交流として3、4、5歳児が近隣の2か所の高齢者施設を訪問し、歌や手遊び等で交流している。同じく幼児は月1回銭湯に出掛け、一般客と一緒に風呂に入って裸の付き合いをする中で、銭湯のマナーも学んでいる。

毎日園を開放し、毎週水曜日は親子ランチや工作等のプログラムを実施している

地域の子どもも一緒に保育する、市主催の「青空保育」は、昨年度と今年度の途中までは近隣の公園で毎月実施し、来年度の再開を目指している。園の開園日は毎日、一室を近隣の親子に開放し、昨年度は年間のべ234人が参加した。毎週水曜日には、親子ランチや工作等を楽しめる企画が催され、各回ともすぐに定員に達している。1日保育体験は、親子で朝から昼食までの半日、1日あたり2人が活動を体験するプログラムであり、入園希望者の利用が多い。夏祭りの参加者に、懸案の園庭の石拾い競争に参加してもらう等、近隣の方々と積極的に交流している。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	2-1-1	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している
タイトル①	法人全体で職員からの提案を公募し、年間行事計画に反映する仕組みを整えている	
内容①	子どもの主体性を引き出す保育の担い手となる職員自身が、子どもにとって必要な経験とは何かを自分の頭で考え、実行する力を身につけるために、年間指導計画を策定するプロセスに職員からの提案を反映する制度を設けている。行事や体験活動に関する職員からの提案内容を法人全体で共有し、それを踏まえて自園で実施したい行事や活動について職員が各園の年間計画策定会議でプレゼンテーションを行い、協議のうえ決定している。決定までの流れや手順を法人のマニュアルに明示し、標準化を図っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル②	法人全体の自己啓発の仕組みとして、実践的な内容のスキルアップ講座を催している	
内容②	法人全体の自己啓発の仕組みとして、現場の職員が中心となって実践的な内容のスキルアップ講座を催し、職場や職種を超えて共に学び合う機会となっている。講座の内容は多岐にわたり、その数は年間で100を超えている。職員の自発性に基づく就業時間外の研修ではあるが、主体的な学びを重視する法人の人材育成の仕組みにおいて核をなす取り組みとなっており、本社の管理部門がその運営を全面的にサポートしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル③	5歳児は、卒園までにご飯とみそ汁が作れるよう、計画的に学んでいる	
内容③	5歳児は、出汁からみそ汁が作れることを最終的な目標とし、月1回取り組んでいる。毎日の昼食用ご飯は、5歳児の当番が米を研いで、炊飯器で炊いている。2月の生活発表会を1年間の集大成の場とし、5歳児が炊いたご飯とみそ汁を保護者が味わった。年齢に応じた食育活動として、グリーンピースのさやむき、たけのこ・トウモロコシ等の皮むき、えのき解し等の食材の下ごしらえを手伝ったり、おにぎり、梅ジャム、夏野菜カレー、さんまを焼く等の調理を年間を通して実施している。牛乳パック等でも野菜を栽培し、料理活動へつなげている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	年齢や国籍、障害等のバリアを排した環境上の工夫や、子どもの自主性を踏まえた様々な経験の蓄積を通じて、生きる力の形成を目指している
	内容	異年齢の子どもが園での生活や遊びを通して自然な形で関わりを持ち、年下の子どもは年上の子どもに倣い、年上の子どもは年下の子どもを助けながら共に成長することを意図した環境の工夫をおこなっている。クラスの壁の他にも、国籍の違いや障害の有無によって生じかねない心のバリアを取り除き、子ども同士が互いの存在をありのまま受け止め、認め合う関係を目指したインクルーシブ保育を実践している。また、年長児になると遊びや生活時間を自己管理するとともに、さまざまな仕事の分担や経験を通して、生きる力の形成につながる保育を展開している。
2	タイトル	法人本部にコンプライアンス担当を置き、組織全体で法令遵守と子どもの人権の尊重に高い意識を持って取り組んでいる
	内容	法人本部にコンプライアンス担当を置き、各事業所における日々の利用状況やサービス提供体制、障害児通所給付費の算定や個別支援計画の見直し期間等について、法令の要件を満たしているかを一元的に管理する仕組みを整えたとともに、3か月ごとの法人の内部監査により、法令等に沿った運営を行っているかを点検している。また、法人共通のチェックリストに沿って、職員一人ひとりが子どもの人権を尊重した対応をおこなっているかを振り返る機会を定期的に設けており、法人として法令遵守と子どもの人権の尊重に高い意識を持って取り組んでいる。
3	タイトル	地域の社会資源として子育て家庭の支援に役割を果たすとともに、園児が地域社会の中で見守られながら育つための交流に力を注いでいる
	内容	園が保有する社会資源を積極的に地域に還元し、子育て家庭の交流と支援を推進している。地域の子育て家庭が親子で利用できるよう、平日は園庭・園舎を開放して相互交流を促している他、園内に設置された地域支援活動の拠点となる部屋において、厨房職員の指導による週1回の親子クッキングを開催し、毎回好評を呼んでいる。また、週1回程度の地元の商店街の訪問や月1回の銭湯の利用など、日常の保育活動において積極的に地域に出向き、近隣住民と交流する機会を通じて、子どもたちが地域社会の中で見守られながら育つ環境づくりを進めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	豊かな自然環境を活かし、日常の保育活動の中で子どもの発見にたいねいに応答しながら、法人の保育目標の実現につなげることが期待される
	内容	法人の保育目標の一つに「センス・オブ・ワンダー」を掲げ、農作業や動物の世話などの労働や体験を通して、子どもがものの性質や身近な事象、生命の尊さ等に気づくことを方針に謳っている。当園は武蔵野の緑豊かな環境の中にあり、日常の戸外保育において子どもたちが自然に触れる機会に恵まれている。保育所保育指針に謳われた教育の視点から、散歩に出かけた公園やその行き帰りでの子どもの発見に保育士がたいねいに応答し、子どもの興味・関心を広げる機会として活かしているかどうかを改めて振り返り、保育目標の実現につなげることが期待される。
2	タイトル	アセスメント関連情報から子どもの支援ニーズを総合的に捉え、個別の保育計画の作成や見直しにつなげる仕組みを確立することが期待される
	内容	児童票を使って子ども一人ひとりの発達状況を年齢もしくは月齢ごとの項目に沿ってチェックするとともに、子どもの姿の変化等を定期的に記録している。ただし、個別保育計画の作成にあたり、子どもの発達状況や健康状態、家庭の養育環境等の情報から保育ニーズや支援課題を分析・検討し、保育のねらいを定めるアセスメントのプロセスにおいて、児童票の位置づけは必ずしも明確になっていない。前月の子どもの姿の振り返りに加えて、子どもに対する支援課題及びその変化を総合的な観点から捉え、個別の計画につなげる体系的な仕組みの確立が期待される。
3	タイトル	保育時間の長い子どもや、五感から入る情報の統制が難しいなど特に配慮が必要な子どもが落ち着いて過ごせる環境設定の工夫が期待される
	内容	2階建ての園舎の1階に3、4、5歳児、2階に0、1、2歳児の保育室が設けられ、0歳児以外の保育室は全く仕切りのないオープンな構造になっている。異年齢の子ども同士が生活を通して関わりを持ちやすいメリットがある一方、保育時間の長い子どもや、感覚が過敏だったり情報の統制が難しい子どもにとっては必ずしも落ち着ける空間とはなっていない面もある。そのため、園では子どもがじっくりと遊び込める環境づくりを重点課題の一つに据え、人的環境と物的環境の両面から取り組む方針を継続して掲げており、今後のさらなる進展が期待される。